

<あなたに欠けていること>

マルコ10：17～22



あなたの人生はどこへ向かっている？ ゴールはどこ？

私が自分の走るべき行程を走りつくし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかす任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。

使徒20：24

目指すゴールがはっきりしている人の生き方は、すがすがしい。

「優先順位」の規準はどこにあるか

「緊急」と「重要」の判断 時間とお金の使い道

イエスさまの元に走り寄って来た人物・・・青年・金持ち・役人

青年 「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。」

イエス 「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもありません。・・・『殺してはならない。偽証を立ててはならない。あざむき取ってはならない。父と母を敬え。』」

青年 「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」

イエス 「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。【22節】

立派に生きてきたこの青年にも、出来ない事があった。

◆自分は「できている」と思えば、自分が欠けある者であるとは気づきにくい。
盲目。見えていない。

◆永遠のいのちをじぶんものとして受けるのは
「自分が何かをしたら」得られるものではない。神の側から与えられるもの。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から
でたことではなく、神からの賜物です。 エペソ2：8

イエスは彼を見つめいつくしんで言われた／Jesus looked at him and loved him.

* Loved・・・ἀγαπάω(ギリシャ語・アガパオ)

愛される価値があるかないかに関わらず、自発的に
自分を与える犠牲的な愛を意味する言葉。神の愛。

◆青年は、自分の財産に依存していたので。神に全面的な信頼を置くことが
出来なかった。

◆何でも自由に選ぶこと出来る。しかし、選んだ事の結果は選ぶことは出来ない。

神様の愛は観念的(頭の中だけの世界)ではなく、現実的。
神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じるものが、
ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。 ヨハネ3：16

「原罪」をテーマにした小説 「氷点」三浦綾子著

「金持ちの青年」と対照的な「収税人ザアカイ」

◆自分の方法で神に近づこうとする「自分の側の主張」が強いと、神の側から
差し伸べられている手を見るのが難しい。

◆宗教は人が神に近づこうとするもの。しかし福音は神が人に近づいてくださった。